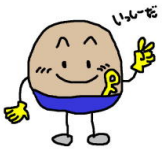
家庭数配付

石田小学校だより　９月号　　甲府市立石田小学校（電話　２２２－５４１４）



悠紀だより

学校教育目標　「自ら学び，自らを高める，心ゆたかな子」

（1）よく考え進んで学ぶ子　（2）相手を思い遣る子　（3）健康でたくましい子

平成２６年　９月１２日　発行責任者 校長 乙黒　崇

心・体を鍛える　～～運動会の取り組みから～～

来る９月２７日（土）は，運動会です。私は４月にこの石田小に赴任して以来，運動会を楽しみにしていました。運動会は，それぞれの地域や学校によって，「形」や「内容」が皆違うので，その学校の独自性いわば「個性」が見られるのです。ですから，今年は石田小での運動会を今からわくわくして楽しみにしています。

当然保護者の皆さんは，運動会当日をご覧になるわけですが，学校では当日はもちろん前日までの取り組みが，とても大切で，それらの活動で子供たちは大きく成長します。演技の練習，係活動への取り組み，応援練習，またそこに到達するための話し合い活動など，子供たちは多くのことを学びます。「役が子供をつくり，子供が役をつくる」と言われ，一つの行事が終わると一段とたくましく育ちます。

今年の運動会のテーマは，「みんなでつなごう，石田の輪」，具体目標は，①「前を見てしっかり聞こう」，②「すばやく動こう」，③「両足でしっかり立とう」です。大変わかりやすい約束で，すぐイメージすることができます。規律や約束がしっかり守ることができる子供たちは，すばらしい子供たちです。当日は，演技だけでなく，そのような多様な場面をご覧になってください。

災害時などに見られる「正常化の偏見」について

９月４日（水）に地震の避難訓練を実施しました。今回は，子供たちには事前に連絡をしない，しかも休み時間という設定で行いました。自分の周りに大人がいない状況で，どのようにして自分の身を守るかという訓練です。今後も「自分の身は，自分で守る」という意識を育てていきたいと考えています。

さて，皆さんは，「正常化の偏見」という概念をご存じでしょうか？これは，目の前に危険が迫ってくるまで，その危険を認めようとしない人々の心理傾向，つまり「危険を無視する心理」を指します。特に災害時など，人間には，自分にとって都合の悪い情報を無視したり，過小評価したりしてしまう心理的特性「正常化の偏見」があるとされています。

私もこの概念を知ってから，災害時に限らず，いろいろな場面に置き換えて考えてみました。学校の教育活動や子育てなど，過去３０年を振り返ってみると，「本当に自分に都合良く考えてい

たな」や「本当にそれで良かったのかな」など，思い当たることがいくつもありました。保護者の皆さんもぜひ，いろいろな場面に置き換えて考えてみると，今までとは違った視点で考えられるのではないでしょうか。

まず最初に災害について考えてみると，災害発生時に危険を予測し，回避するためには自然災害に関する知識を身につけるとともに習得した知識に基づいて的確に判断して，迅速な行動を取ることが大切です。その時に，状況を決して過小評価せず，「正常化の偏見」に惑わされず，安全な行動を取ることに心がけるが重要です。子供たちには，どのような状況でも『上から物が落ちてこない』『横から物が倒れてこない』『物が移動してこない』場所に素早く身を寄せて安全を確保することができるようにしていきたいと考えています。

また，今の教育課題では，いじめ問題が大きく取り上げられています。いじめは，「命」に関わる大きな問題です。問題が起きた場合は，適切な対応が重要です。そのためには，子供のわずかな変化に周りが気がつくことが第一です。学校でも，実情把握に努めています。子供たちの様子を注視したり，大勢の子供から情報を集めたり，アンケートを取ったりして，できるだけ多くの情報の中から子供たちのわずかな変化にも気付くように対応しています。御家庭でも，何か普段と様子が違っているなど少しのことでもありましたら，決して「正常化の偏見」にとらわれず，遠慮無く学校に相談してください。学校と家庭が互いに協力し合い，いじめをなくすことが，第一です。

以下に掲載してあるものは，山梨県教育委員会のＨＰにありました「家庭で分かるいじめ発見のためのチェックポイント」です。参考にしてみてください。

「家庭で分かるいじめ発見のためのチェックポイント」 ※山梨県教育委員会のＨＰより抜粋

いじめられている児童が家庭で出すサイン

- □ 衣服の汚れや破れが見られたり，よくけがをしたりしている。
- □ 食欲がなくなったり，体重が減少したりする。
- □ 学用品や所持品が紛失したり，壊されたりしている。
- □ 寝つきが悪かったり，夜眠れなかったりする日が続く。
- □ ボーっとしていることが増える。
- □ 登校時刻になると身体の不調を訴える。
- □ 「学校行事に来ないで」と言う。
- □ 表情が暗くなったり，言葉数が少なくなったりする。
- □ 言葉づかいが乱暴になり親や兄弟姉妹に反抗したり，八つ当たりをしたりする。
- □ 学校のことを話したがらず，無理に聞こうとすると怒る。
- □ 転校を口にしたり，「学校をやめたい」などと言い出す。

学校は，子供たちが安全で，楽しく元気に活動できる場でなくてはなりません。集団で生活する学校では，教師はもとより子供たちも互いに周囲に対し，「思い遣る気持ち」をもって生活しなければと思います。毎日の学校生活の様子を茶の間の話題にしていただければ幸いです。よろしくお願いします。